

Press Release

2024年7月31日

報道機関 各位

国立大学法人東北大学

「元和二年仙台地震で津波が発生した」根拠はなかった 一誤った通説が形成された過程も明らかに一

【発表のポイント】

- 元和二年七月二十八日(西暦 1616 年 9 月 9 日)に発生した仙台地震で「津波が発生した」とする年表やデータベースがありますが、史料・文献調査を通じて、この津波には根拠がなかったことを明らかにしました。
- 本研究は、誤った通説が形成された過程も明らかにしました。まず、約 180 年後に記された史料などにおいて、「慶長十六(1611)年『慶長奥州地震津波』の津波を元和二年としてしまった年代の誤記」があり、それが近代以降、元和二年地震で津波が発生したとする地震学の通説につながったことが判明しました。
- 東北地方の災害史をより正確かつ詳細に解明する手がかりとなる研究成果です。 今後も、歴史資料に立ち返って歴史災害の実相を明らかにし、津波発生頻度の より正確な推定など、今後の防災に生かしていくことが重要です。

【概要】

これまで、複数の年表やデータベースにおいて、「元和二(1616)年に発生した仙台地震の際、宮城県沖などで津波が発生した」と記載がなされてきました。しかし、この津波の存在を決定的に論証する研究は、これまでありませんでした。

東北大学災害科学国際研究所の蝦名裕一准教授は、元和二年仙台地震に関する史料と、同地震で津波が発生したとする文献の精査を行い、「元和二年仙台地震で発生したとされる津波には史料的根拠がない」ことを明らかにしました。

さらに、このような誤りが生じた過程として、史料における年代の誤記が、近代以降の編纂物や地震研究に引用され、元和二年仙台地震の際に津波も発生したとする地震学の通説へとつながっていったことを示しました。

本研究の成果は、2024 年 7 月 31 日に刊行された歴史地震研究会の会誌『歴史 地震』に掲載されました。

【詳細な説明】

研究の背景

元和二年仙台地震に関する史料や伝承は極めて数が限られ、ある程度の信頼性が高い史料として、江戸幕府の公式記録『譜牒余録』(ふちょうよろく)と仙台藩の史書『貞山公治家記録』(ていざんこうじかきろく)があります。両史料に、元和二年七月二十八日(1616年9月9日)、「仙台にて地震が発生し、仙台城の石垣や櫓が破損した」旨が記されています。一方、『日本被害津波総覧』(1998年)、"Global Historical Tsunami Database"等は、さらに「元和二年仙台地震の際、宮城県沖などで津波も発生した」としています。しかし、この津波の存在を論証する決定打となる研究は、これまでありませんでした。

今回の取り組み

そこで、東北大学災害科学国際研究所の蝦名裕一准教授は、「元和二年仙台地震の際、津波が発生した」とする地震学の通説の根拠を検証することにしました。蝦名准教授は、まず、「元和二年の仙台地震に関する仙台藩史料には地震に関する記述しかなく、津波については触れられていない」ことを確認しました。元和二年仙台地震で津波が発生した根拠とされる最も古い史料は、寛政九(1797)年に著された『大槌古今代伝記』(おおつちこきんだいでんき、現在の岩手県大槌地域の史料)等で、ここに「元和二年十月二十八日」に津波が発生したという記述があります。複数の史料を照合した結果、ここで記されている津波は、実際には「慶長十六年十月二十八日(1611年12月2日)」に発生した「慶長奥州地震津波」のことだとわかりました。つまり、『大槌古今代伝記』では、津波の発生年が誤記されていたことになります。

この大槌に関する史料で「元和二年に津波が発生」とされたことが、近代以降、「元和二年仙台地震で津波が発生した」とする誤った説の発生につながっていきました。具体的には、まず、『宮城県海嘯誌』(1903年)が「元和二年、陸中において大津波が発生した」とし、さらに『宮城県昭和震嘯誌』(1935年)は、「元和二年七月二十八日に三陸地方で強震と大津波があった」としました。この時点で、地震の発生日が仙台地震と同一にされ、かつ、被害の範囲が、主に岩手県域を指す「陸中」から、宮城県も含むより広範な「三陸」へと書き換えられました。この内容が、地震学の基礎資料となる『増訂大日本地震史料』(1941年)に収録され、さらに、その後の歴史地震研究の中で、推定とはいえ震源や津波の規模の具体的な数値が付加されたことで、元和二年仙台地震であたかも津波が本当に発生したかのようなイメージが流布していったと考えられます。

蝦名准教授は、あわせて、『日本被害津波総覧』(1998年)等に収録されている「元和二年、津波が寒風沢(さぶさわ)島(現在の宮城県)に到達した」とする伝承についても検証しました。同総覧でも引用されている『浦戸郷土史』に遡って記述を確認したところ、元々の伝承は、寒風沢島に津波が襲来したのは、元和二年ではなく、永禄年

間(16世紀)としていたことがわかりました。

本研究の結果、「元和二年仙台地震の際、津波も発生した」とする根拠はすべて否定され、誤った通説であったことが明らかになりました(図1、図2)。

今後の展開

元和二年仙台地震の際に津波が発生した根拠が皆無となった以上、"Global Historical Tsunami Database"等に記載された同津波の記述は修正する必要があります。

今回の研究は、東北地方の災害史をより詳細に解明する手がかりを提供するとともに、現在普及している歴史地震・歴史津波の定説や被害イメージの中にも、間違いが含まれていた実例を示しました。本件に限らず、さまざまな文献を参照しあい、記述を重ねるうちに、誤解や解釈の誤りが定説化してしまうことがあります。歴史災害の実像は、定説にとらわれず、幾度も歴史資料に立ち返り、検証することから明らかになります。

慶長奥州地震津波(1611年)に関しては、当時の津波の規模等については諸説あるものの、その存在自体はすでに学術界でも確定し、歴史学と工学、地質学等の知見を総合した解明が進んでいます。今後も、過去のさまざまな災害に関し、元の歴史資料に立ち返ってその実相を明らかにし、津波発生頻度のより正確な推定など、今後の防災に生かしていくことが重要です。

図 1. 元和二年仙台地震に関する史料と伝承

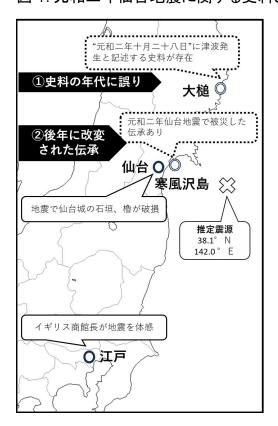
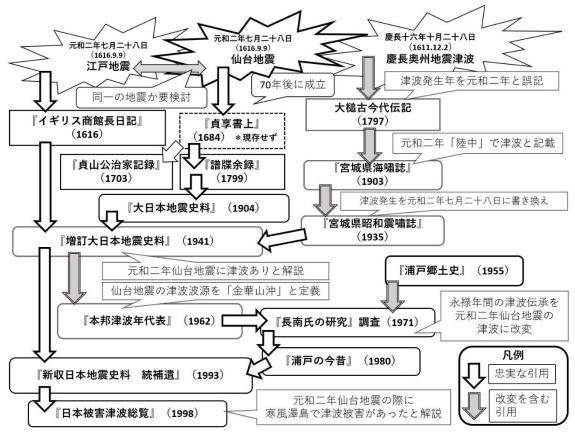


図 2. 元和二年仙台地震をめぐる史料・文献の記述の変遷



【謝辞】

本研究は、文部科学省による「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画(第2次)」の支援を受けました。

【論文情報】

タイトル:元和二年(1616)仙台地震における津波被害はあったのか?

著者:東北大学災害科学国際研究所 准教授 蝦名裕一

掲載誌:『歴史地震』39号

URL: https://www.histeq.jp/kaishi.html

【問い合わせ先】

(研究に関すること)

東北大学災害科学国際研究所

准教授 蝦名 裕一

TEL: 022-752-2144

※7/31~8/2 の期間については、

お電話は下記広報室へお願いします。

Email: yuichi.ebina.b6@tohoku.ac.jp

(報道に関すること)

東北大学災害科学国際研究所 広報室

TEL: 022-752-2049

Email: irides-pr@grp.tohoku.ac.jp